

平成 30 年度採択 \ごまるよん。 /

PROJECT TITLE

100 年つづく公設市場ミーティング



PROJECT MEMBER 法文学部 人間科学科社会学専攻

系数 梨々花 (左) 会場担当

川崎 宇温 代表

根間 友紀乃 (中央) デザイン担当

伊佐 日奈子 予算・会計担当

金城 愛弥 (右) 代表代理

金城 ひな子 行政担当

辻本 誠 総合ファシリテーター担当

プロジェクト概要

調査

公設市場の魅力を知るため、市場利用者や関係者などにアンケート・インタビューを実施

イベント

市場関係者・市役所職員・地域の利用者・学生などと共にミーティングを開催

報告

公設市場についての情報誌を発行。イベント終了後には各所に報告書を提出

STORY

長期的な地域づくりを視野に入れた公設市場の在り方の構想を目指す

\ごまるよん。 / 結成のきっかけは、メンバーのほぼ全員が法文学部 人間科学科社会学専攻で「市場の社会学」という授業を受講していたこと。市場の社会学では市場の歴史を学び、フィールドワークにより公設市場の現状を知った。公設市場の事を調査するなら建て替えが現在進行系で進んでいる今が一番熱い時期なのでは、ということを経験を通して学んだメンバーは、ちゅらプロという取り組みを知り、そして同じ研究室にいた地域創生副専攻のメンバーと共に何か出来ることがあるならやってみようというチームが結成された。

牧志公設市場の関係者、利用者、那覇市役所などにアンケート・インタビュー調査を実施し、第一牧志公設市場の現状を把握。それを踏まえて「100年つづく公設市場ミーティング」を開催することに。ミーティングでは「多様な人々・長期的な視点・自分事として考える」

をキーワードに、地域のビジョンを考える場を提供。地域への成果の還元として、瓦版や報告書の作成・配布をするとともに、地域のイベントでプロジェクトの報告を行った。

採択の情報が入る前から公設市場の建て替えについての説明会に参加するなど、授業を通してきっかけになる行動を起こしていたメンバーは、採択が決まった瞬間から調査を開始。メンバーは皆授業で実習を取っていたので集まる機会が多く、必修も被っていたので常に相談して進められる環境にあった。

授業で学んだ専門知識を調査に活かせた



採択が決まってまず行ったのは、調査票を作成すること。メンバーは皆、社会調査の授業を取っていて、同時期の実習でインタビューがあり、プロジェクトが始まる前に全員が経験したため、ちゅらプロでは皆の経験と専門知識を活かした活動ができた。また、インタビュー対象者は、市場の社会学で担当していた先生や調査関係で繋がった方々に話を聞きながら選定し、アポ取りを行った。まちぐわーの研究をしている先生や、市場に店舗を持つ同じ研究室の卒業生などに市場の方と繋げてもらい、スムーズな調査が実現した。

自分たちに足りない技術を フォローしてくれる大人がいた



メンバーは実質 6 人。常に作業を分担していたが、実習もあり、別プロジェクトのまちぐわー調査も同時に走らせていたため、スケジュールの管理は金城さんを中心にかなり綿密に行った。スプレッドシートを活用して授業で集まる日以外にも作業できる日を常に可視化出来るようにして、少ない時間を最大限に有効に使うことを心がけた。

また、ミーティング運営にあたりに必要なワークショップやファシリテーションを学ぶため、社会学の先輩でもある、まちづくりファシリテーターの石垣綾音氏に講師を依頼。イベント管理の方法や、イベントまでのスケジュールの立て方、またイベント当日の組み方まで指導してもらった。また、大学のちゅらプロ担当者からは、チラシの作り方、プレスリリースの出し方などの指導を受けた。

一度きりのイベントでは終わらせない アーカイブを残して後世に繋ぐ



今回のプロジェクトの目的はイベント「100年つづく公設市場ミーティング」をした上で、プロジェクト全体をまとめた報告書を作成すること。しかし、メンバーにはイベントを単発で終わらせたくないという想いがあった。社会学などの授業を通して、単発で外部的な地域発展ではなく、持続可能性や地域の特徴を意識した長期的で内部的な地域振興の方法を考えてきたため、この活動を後世に伝えるため、自分たちの専門性を活かした調査をアーカイブとして残すことを常に意識してプロジェクトに取り組んだ。

イベント当日は市場や周辺事業者・那覇市役所職員・マチグー楽会・学生などたくさんの方々が参加。驚くことに高校生の参加者もいて、活発に意見交換を行っていた。

イベントから3年経って



＼ごまるよん。／メンバーの3人は、第一牧志公設市場の組合長、粟国智光さんを再訪。

「彼女らの活動はちょうど公設市場の建て替えとリンクしていたので、100年つづく公設市場ミーティングは市場の未来予想図を構想する上でプラスとなりました。現在建設中の公設市場の1階と2階はこれまでの公設市場を踏襲したスタイルで、3階には調理スペースと多目的スペースを作る予定です。沖縄の琉球料理の専門家が生徒と市場を回って食材を買い3階で調理し、多目的スペースで作った料理を食べたり、食文化の講習をするようなプランも検討中で、既に専門団体にヒアリングをしています。来年は沖縄復帰50周年。沖縄の食文化をテーマにした朝ドラマも始まるので、沖縄の食をもう一度見つめる良い機会になるのではと思っています」



古本屋ウララの店主、宇田智子さんは「市場周辺は若い人がお客さんとして来てくれることは少ないので、まず地元の学生さんが来てくれる事自体がすごく嬉しかったです。また私は県外から来ているので、地元の方からみて私の店がどう見えているのかを知ることが出来て面白いと思いました。色々お話する中で発見することも多かったので、この活動を続けてもらえたらいいなと思っています」とにこやかにメンバーの再訪を歓迎していた。

プロジェクトを通じて見えたもの



金城 愛弥「私は代表代理として全体の進行をみることで、管理能力やプロジェクトマネジメント能力身についたことを実感しています。元々リーダーシップを取る機会が多かつ

たのですが、ファシリテーション講座を受講したことで自己流ではなくビジネスなどでも通用するスキルを得ることが出来ました。また、私の出身は那覇ではありませんが、今回のプロジェクトを通して地域で活躍している様々な方とネットワークを築いたことで、イベント後もこの地域を気にかけるようになりました」



根間友紀乃「私は主に瓦版などのデザインを担当しました。制作は全てパワーポイントで、那覇市が発行する文字だけの資料を、図やイラストを使って分かりやすくすることに特にこだわりました。パソコンのスキルはかなり上がったと思います。また、時間がない中でデザインだけでなく進行状況を意識し自分が今何をすべきか常に考えて行動したり、色々な人とコミュニケーションを取る力も付いたと思います」



糸数 梨々花「私は主に会場担当で、ミーティング会場の視察やセッティングを担当しました。また、インタビューやアンケート調査も行いました。その中で市場の考え、行政の考え、観光客から見た市場は全然違うことに気づき、相手の立場に立って物事を考えられるようになりました。普段過ごしている中でも色々な角度から物事を見られるようになったと思います。コミュニケーション力もかなり上がりました」

金城ひな子

「私は那覇市に住んでいますが、公設市場やまちぐわーの歴史についてあまり知らずに、当たり前にあるものだと思っていました。そのため、その価値や未来についても考えたことはなかったです。けれど、このプロジェクトを通して自分の住む地域について考えるようになり、より大切に感じるようになりました。また、色んな方に協力してもらって、スケジュール管理やプロジェクトの進め方、さらに社会人の方とアポイントを取るなど社会人としてのマナーを学ぶことができました」

伊佐日奈子

「まちぐわーを通して地域のあり方や、地域の人々との関わり大切さを改めて知りました。プロジェクトを通してまちぐわーの将来などを自分ごととして考えることで、今までの自分には見えなかったことが見えてきました。この感覚は社会人として働いた際にも活かせることだと思い良い経験だったと思います。あと就活ではアポの取り方や、アンケート調査の際の経験の話しました！プロジェクトでは、積極的に話しかけた結果、皆さん協力的で沢山の声を集めることができました」

辻本誠

「公設市場の方々の想いを集め、報告書という形で残せたのは非常に価値あることだと思います。現在の公設市場は大きな転換期にあり、このような大事な時期にチームで組み、自分たちの学問の特徴を生かしながら関わるのができたのは大きな財産になりました」

成 果

- 公設市場の現状を把握することが出来た
- 公設市場についてより多くの方に関心を持ってもらうことが出来た。
- 参加者が色々な立場の人々と繋がり、長期的な地域づくりと地域課題を自分ごととして捉えることが出来た
- 公設市場組合長から那覇市議会後世経済委員会や那覇市長へ「100年つづく公設市場ミーティング」に関する情報提供がなされ、イベントの成果が公設市場再整備事業へ反映される可能性が生まれた

PDF ダウンロード

瓦版 vol.1

瓦版 vol.2

事業報告書